第 10 号　　平成 25 年 9 月 15 日発行

新美南吉生誕100年通信

NIIMI NANKICHI 100th Anniversary Year

新美南吉さん、100歳おめでとう

発行　新美南吉生誕 100 年記念事業実行委員会　〒 475-0966　愛知県半田市岩滑西町 1-10-1　新美南吉記念館内

私たちの新美南吉さん 100 歳おめでとう！

1　バースデーケーキを花で飾って 100 歳を祝う

2　式典後に色とりどりの花を献じる来館者

3　著作権継承者名義委譲式（左新美南吉の会代表・右半田市長）

新美南吉が生きていた百歳を迎えた七月三十日（火）、新美南吉記念館では誕生日を祝う式典や催しが行われ、大勢の市民や全国の南吉ファンが集いました。

開館と同時に始まった式典では、関係者や来賓がプリザーブドフラワーでバースデーケーキを飾り、百歳の誕生日を祝いました。会場のエントランスホールには、半田農業高校の生徒による花が飾られ、南吉の童謡「明日」を歌う半田中学校合唱部の美しい歌声が響きました。

続いて図書室では、東京で新美南吉の著作権を管理する団体「新美南吉の会」（代表・渡辺矩夫さん）から半田市へ、著作権継承者名義を委譲する覚書の調印が行われました。今後、南吉作品が正しく広まるよう著作者人格権を守る活動を半田市が引き継ぐこととなり、市長は「期待に沿うよう全力を尽くします」と挨拶しました。

その後、これまで新美南吉顕彰に尽くしてこられた方々への表彰式があり、南吉作品を世に広めた詩人の故巽聖歌、安城高等女学校の教え子、南吉研究の第一人者の大石源三さんの三者に半田市長から感謝状が贈られました。巽聖歌への感謝状は長女の中川やよひさんが受け取り、「天国の父が喜んでいると思う」と涙ながらに語りました。また教え子を代表して受け取った加藤千津子さんも「先生からご褒美をいただいたよう」と感慨深そうでした。

「ことばの杜朗読会」第一部で「ごんぎつね」を朗読する児童（7月27日）

名誉市民章の贈呈式（7月27日）

幕間のトークを半田高校放送部と宮本隆治さんが共演（7月27日）

市民音楽祭フィナーレの全員合唱（7月28日）

「ことばの杜朗読会」第二部で南吉作品を朗読する元ＮＨＫアナウンサー（7月27日）

新美南吉生誕祭

7月27日(土)～8月4日(日)

七月三十日の新美南吉百歳の誕生日と前後の週末を含む九日間、南吉のふるさと半田市では盛大に新美南吉生誕祭が開かれました。

メイン会場の雁宿ホール（半田市福祉文化会館）では、週末ごとに大ホールでのステージイベントが組まれ、平日も南吉童話絵本原画展（七月二十日から先行開催）、市内幼保小中南吉学習作品展示、文化協会南吉作品展示、南吉ポスター展、絵手紙コンテスト作品展示など関連展示が期間を通して行われました。

開幕式典・ことばの杜朗読会

初日の大ホールでは、まず生誕祭の開幕式典が行われ、新美南吉を半田市の名誉市民に推す推挙状と名誉市民章が、半田市長から遺族代表の渡辺矩夫さんへ贈られました。渡辺さんは、「南吉はふるさとの人々と絆を結ぶことを願っていた。天国で喜んでいると思う」と挨拶されました。

その後、ことばの杜朗読会「読み語り～南吉と出逢う」が開催されました。山根基世、松平定知、宮本隆治など元ＮＨＫアナウンサー五人が、「狐」「屁」「疣」など南吉の少年小説を中心に、幼年童話や日記なども交えながら朗読をしました。ときおり笑いを誘いながらも、静かに物語の世界へ引き込んでいく言葉の力に会場全体が聴き入っていました。

またアナウンサーの朗読の前には、子どもから大人までの市民による「ごんぎつね」や詩の朗読も行われました。出演したのは市内十三小学校から様々な学年

朗読のあるシンポジウム「南吉童話の『声』」で朗読する西川小百合さんと松丸春生さん（8月3日）

ロビーで演じられた大型紙芝居

「南吉が愛したクラシック音楽」で南吉の詩を朗読する中京テレビアナウンサー（8月4日）

生誕祭期間中を通して開催された南吉童話絵本原画展（上）
幼保小中南吉学習作品展示（中）
半田市文化協会南吉作品展示（下）

の児童二十六人、教員二人、読み聞かせ団体「きりんの会」から異年代の六人で、この日のために今年一月から練習を重ねてきました。練習には東京から「ことばの杜」代表の山根基世さんが何度も通ってくださいました。

市民音楽祭

二日目の七月二十八日（日）には、半田市合唱協会と半田市民管弦楽団による「市民音楽祭」が行われました。各合唱団による南吉の詩の合唱曲、オーケストラと合唱による組曲「はんだ」第二曲「南吉」の演奏、最後は「貝殻」と「枇杷の花」をオーケストラの伴奏に合わせ、全合唱団員が歌い上げました。

朗読のあるシンポジウム・南吉童話の「声」

八月三日（土）の朗読のあるシンポジウム「南吉童話の『声』」～声が広げる世界・声が結ぶ絆～は、朗読家の松丸春生さんと西川小百合さんによる南吉作品の朗読で始まりました。

南吉は、声で語られることを念頭に作品を作りました。そこから生まれる特質や現代児童文学にはない魅力について、児童文学研究者の宮川健郎さんをコーディネーターに、朗読家の二人、童謡詩人で研究者の畑中圭一さん、発達心理学・教育心理学が専門の秋田喜代美さんがそれぞれの立場から発言し合いました。

南吉の愛したクラシック音楽～詩の朗読と共に～

最終日の八月四日（日）には、南吉が愛したクラシック音楽の演奏を、中京テレビのアナウンサーによる詩の朗読とあわせて楽しむ催しが行われました。

これは平成二十二年から毎年、中京テレビの協力により行われている演奏会の拡大版で、生誕百年の今年は名古屋フィルハーモニー交響楽団を招き、南吉がよく聴いていたベートーヴェンの「田園」など、フルオーケストラならではの曲目が演奏されました。

詩と音楽を通して、南吉の世界に浸る贅沢なひと時でした。

皇后さまが南吉展示をご見学

国際子ども図書館（東京）

八月八日（木）、東京上野公園にある国際子ども図書館を皇后さまが訪問され、開催中の展示会「日本の子どもの文学」をご覧になりました。

この展示会は、明治から現代にいたる日本の児童文学作家や画家について、同館が所蔵する本、絵本、雑誌などを通して、平成二十三年から紹介しているものです。その一部として半年ごとに入れ替える児童文学者コーナーがあります。今年二月からは生誕百年を記念し、新美南吉が取り上げられていました（八月十八日で終了）。

報道によると、展示をご覧になった皇后さまは、新美南吉の本の前で、「この話、とても好きでした」「これも読みました」と懐かしそうにお話しされたそうです。

ご出発の際には、玄関前でお見送りをした榊原純夫半田市長と矢口栄前新美南吉記念館長に対して「（平成二十二年の行幸啓で）記念館を訪れた際はありがとうございました。半田は生誕百年でいろいろされているそうですね」「教え子の皆さんはお元気ですか」とお声をかけてくだる場面も（上写真）。行幸啓当時と変わらないお元気そうなお姿と生誕百年に関心を持ってくださっていることに、関係者一同、安堵と感激に満たされました。

新美南吉記念館では、生誕百年記念企画展として十一月九日（土）から『『でんでんむしのかなしみ』原画展』～皇后さまと南吉～を開催します。

（左上・館内の写真は東京新聞写真部提供）

生誕100年、秋も楽しんで！

生誕祭に沸いた夏が過ぎ、「ごんぎつね」の舞台となった矢勝川には、もうすぐ彼岸花が咲き始めます。秋は南吉のふるさとが賑わうもう一つの季節。彼岸花の後も記念イベントが目白押しです。

新美南吉生誕100年記念　ごんの秋まつり

9月20日（金）～10月20日（日）

※彼岸花シーズンの駐車場規制・シャトルバス運行は10月6日（日）まで

ランプの灯りコンサート

10月12日（土）・13日（日）　18：30～20:00

新美南吉の謎解き宝探し～半田に眠る宝を探せ～

10月14日（月・祝）　10：00～16：00

南吉つぁんの山車揃え～童話「狐」の世界～

10月19日（土）　※雨天翌日順延

岩滑と岩滑新田の山車4輌が新美南吉記念館に集結。

※詳しくは公式ホームページをご覧ください。　新美南吉生誕100年　検索

R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用　VEGETABLE OIL INK